

2022年おめでとつございます。今年、日本共産党創立100周年の年です。何としても、参議院選挙で勝利をし、歴史の1ページをつくる年にしたいと決意しています。

「100年を振り返りしをよめよ 新しき光の中におきて思はむ」。昨年末、戦前、暗黒時代に侵略戦争に反対し拷問され亡くなった伊藤千代子さんの生涯と、恩師である歌人・土屋文明氏の句を、改めて手にし読みました。

昨年の総選挙では、日本共産党の歴史の中でも初めて「政権交代」をかかげてたかう画期的な選挙になりましたが、それができたのも、この一〇〇年間、平和と民主主義、国民の苦難軽減に、情熱と不屈の精神で歩みをすすめてこられた先輩方のたたかひがあつてこそです。日本共産党を大きくして、ジエンダー平等、気候危機打開、9条を力にした平和外交をすすめる日本、差別や搾取のない社会をつくるバトンを若者たちにつないでいきたいと思ひます。定数4の埼玉選挙区で、改憲勢力に埼玉の議席を与えるわけにはいきません。私の日本共産党への入党の原点は、祖父を空襲で亡くした母から、「戦争だけは絶対ダメ」と聞いて育ったことです。政党を選ぶ比例代表選挙で、いわぶち友さんはじめ5人全員を国会に押し上げましょう。埼玉選挙区では、3年前の伊藤岳さんの議席に連続して勝利し、24年ぶりの埼玉選挙区での2人の党国会議員の実現へ頑張ります。



新しき光へ
日本共産党元衆議院議員・
参院埼玉選挙区予定候補 **梅村やんち**



【交通案内】西武秩父駅より吉田元氣村行きで万年橋下車、徒歩10分

事件探訪

第4回

落合寅市の墓

篠田 健一

寅市は嘉永三年(一八五〇)秩父郡般若村の黒沢家に生まれ、下吉田村矢畑の石島うらと結婚し、同村半根子の落合喜代八の養子となった。事件当時三四歳で妻うらとの間に三男がいた。

明治一六年一二月、上吉田村の高岸善吉、坂本宗作とともに秩父郡役所へ高利貸説諭請願を行った。それが秩父事件の始まりだった。翌年三月、三人はそろって自由党に加入。その後、郡役所への請願、山林集会開催と困民党組織化に奔走し、高利貸との交渉を続けた。

蜂起に際しては乙副大隊長に就任し、明治一七年一月五日、粥新田峠での鎮台兵との戦いを指揮したが四散した。その後、土佐の板垣退助を訪ね、土佐山村(高

知市)の旧自由党员宅などに匿われ、八か月滞在。この間、欠席裁判で重懲役一〇年の判決を受けた。

明治一八年七月頃土佐を発ち、いったん帰郷。その後、東京の大井憲太郎宅を訪ねて大阪事件に連座し、一月山口県の下関で逮捕され大阪の獄に収監された。そして浦和重罪裁判所に護送され、欠席裁判通り重懲役一〇年を宣告された。

再び大阪の獄に送られ、大阪事件の取り調べを受けるが、この件では無罪となり、秩父事件の刑で服役。明治二二年二月一日、大日本帝国憲法発布の大赦で出獄し、帰郷した。

帰郷後、寅市は事件参加者の家を訪ねて寄付を募り、明治末年に「加藤織平之墓」を建立、台石には「志士」と刻んだ。「暴徒」に対して立憲志士の「志士」を対置したのである。明治四四年(一九一)キリスト教と出会い救世軍に加わり、大正二年には救世軍日本司令官より感謝状を受けた。

大正六年(一九一七)頃より「秩父殉難志士慰霊碑」建立の活動を始めるが、昭和一年(一九三六)死去、享年八六歳。寅市は出獄後一貫して「秩父暴徒・暴動」に異議を唱えて秩父事件復権顕彰に取り組んだ。寅市の遺志を継いだ四男九二緒が昭和四〇年(一九六〇)「秩父事件追念碑」を秩父市羊山公園に建立した。



二〇二二年の年頭にあたって

治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟 埼玉県本部長 **矢島 恒夫**

明けましておめでとうございます。みなさんには、お元気で新しい年をお迎えのこととお喜び申し上げます。さて、年頭にあたり今年上半期の三大目標を挙げてみたいと思います。

第一は、私たちの先輩は、あの暗黒時代に治安維持法の過酷な弾圧の下で、命がけで戦争に反対し、民主主義を求めて闘いました。今、岸田首相は「敵基地攻撃能力の保有」を表明し、大軍拡と海外での武力行使という新しい危険な方向を強めています。「再び戦争と暗黒政治を許さない」の闘いを大きく広げて、この夏の参議院選で改憲勢力に鉄槌を加えようではありませんか。



正念場の参院選
日本共産党参議院議員
参院選比例予定候補 **いわぶち 友**

「ふたたび戦争と暗黒政治の復活を許さない」この思いで地域のすみずみで活動を続けていらつしやることに心からの敬意を表します。

夏の参議院選挙に比例代表から2期目に挑戦します。私は福島県の出身です。福島県では松川事件の歴史的なたたかひに学び、東日本大震災と東京電力福島第一原発事故によって被害にあつた方々の生活と生業の再建に、政府と東京電力は責任を果たすよう不屈に求め続けてきました。引き続きたたかひを進めるとともに、原発のない社会の実現に力を尽くす決意です。

F16戦闘機やオスプレイの事故が相次ぐなか、日本

第二に、今年6月開催の第40回全国大会に向けての闘いです。県本部は、この決定を全面的に受けとめ、昨年末の会員拡大の実績に学んで、特別期間を設けて取り組みます。今日の情勢の中で、訴えれば反応が必ずあることを実感し、拡大を実践してきました。新しい支部結成へむけての活動を前進させ、県目標早期達成のため、奮闘しようではありませんか。

第三は、映画「わが青春はつきるとも」の上映を成功させることです。新年早々開催の実行委員会が県内30カ所以上の上映計画を提起・具体化し、この上映運動と結んで支部結成、会員拡大、請願署名の目標達成のために奮闘しようではありませんか。

政府の米国への追従がますますあらわになっていきます。昨年末の臨時国会で議論された補正予算には、軍事費約7800億円が盛り込まれ、当初予算を合わせると6兆円という過去最大規模に膨れあがり、岸田総理が敵基地攻撃能力の保有を検討すると表明しました。こうしたことと一体に進められているのが改憲の動きです。改憲勢力は参議院でも改憲発議に必要な3分の2を超える議席を狙っています。世論調査をみても、国民のみなさんが望んでいるのは命とくらしが守られることであり、憲法を変えることは国民の要求ではありません。憲法を守り、くらしに活かす社会へ、夏の参議院選挙は正念場の選挙になります。日本共産党は今年で創立100周年を迎えます。命がけで戦争反対を貫いてきた党の一員として、憲法を守るために全力を尽くす決意です。

熱風

2022年の年明けです。新しい年が平和で豊かな年、みんなが笑顔になる年になりますよう願っています。そのためにも、今の私達を取巻く国内外の情勢を見極めることが必要です。特に、第二次安倍政権以降の日本は、特定秘密保護法、集団的自衛権行使容認の閣議決定、安保法制、戦争法、共謀罪法、そして、学術会議人事介入など、「戦争する国づくり」とモノ言えぬ「恐怖社会」づくりが強行されてきました。歴史の岐路に立たされている今こそ、歴史を振り返り、歴史の教訓を学ぶことが必要です。「国賠同盟」は、戦前、天皇制のもとで主権在民を主張し、侵略戦争に反対したために弾圧された「治安維持法犠牲者」に謝罪と賠償を求めたたたかっています。ドイツやイタリア、韓国では、これらの人々に謝罪と賠償を行っているところに、唯一日本だけが放置されているところに、「歴史逆行政治」の大本があるのではないのでしょうか。先の総選挙の結果、治安維持法犠牲者が礎となつてつくれた「日本国憲法」が最大の危機を迎えています。平和を求めずすべての人々の力を結集して、改憲勢力の横暴と闘い、真に国民が主人公となる民主的な政権実現めざし頑張りましょう。七月の参院選はチャンスです。雪辱を期して立憲野党の躍進で改憲勢力に痛打を・・・ (裕)